

第2学年 道徳科学習指導案

令和元年6月25日(火) 第5校時

- 1 主題名 人間として気高く生きる
内容項目【D 人間の強さと気高さ、よりよく生きる喜び】
- 2 ねらい 主人公に自分を重ねて、考え話し合う活動を通して、自らの人間の弱さや醜さに気付く、それを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、将来に希望をもって喜びのある生き方をする態度を育てる。

教材名 「足袋の季節」 (出典：中学生の道徳「明日への扉2年」学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人間は誰でも、自分に自信が持てなかつたり、劣等感に悩んだり、誰かを妬んだり、恨んだりすることがある。欠点や弱点がない人間はいない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。自分を律することができず、ついつい怠けてしまうことがある。してはいけないと知りつつ、意地悪なことをしてしまうこともある。自分の利益を最優先にして、他人の不利益を無視して行動してしまうこともある。その一方で、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。こうした苦しみに打ち勝って、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りをもつことができたとき、人間として生きる喜びに気づくことができる。そして、生きる喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になり得る。「気高く生きる」とは、自分の良心に従って人間性に外れずに生きることである。

指導に当たっては、まず、事前アンケートを行い、自分だけが弱いのではないということに気付かせる。そして、本教材を用いた話し合い活動を通して、自分の考えを明確にし、他者の考えに触れ、多様な考え方や感じ方があることを知り、自分の考えを深めることで、誰もがもつ人間の弱さや醜さに気づいて、それらを克服して気高く生き、将来に希望をもって喜びのある生き方を見いだそうとする心を育てたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

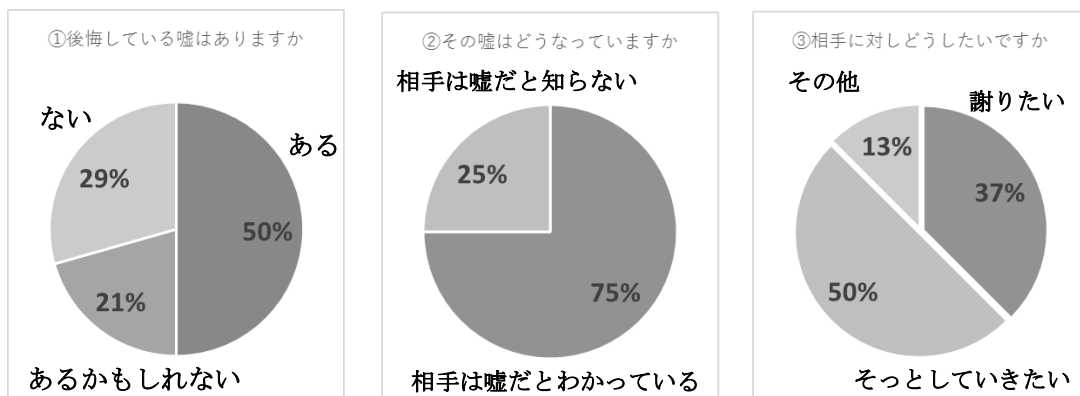
中学一年生では「二度と通らない旅人」を教材として、「人間がもつ弱さや醜さに気付くとともに、その克服に努め、よりよく生きようとする態度」を学習してきた。

中学生の段階では、なかなか自分に自信がもてずに、劣等感にさいなまれたり、人を妬み、恨み、うらやましく思ったりする場面が多い。そこで、中学二年生となった生徒が、これまでの人生の中で人間の弱さや醜さに直面した経験があるかどうかを知るために、本学級の生徒にアンケート調査を行った。

なお、アンケート項目は次の通りである。※①～③は選択式、④～⑤は記述式で回答した。

- 項目**
- ① 今までに、他人についての嘘の中で、後悔しているものやことはありますか。
 - ② ①で、1 ある・2 あるかもしれないに ○をつけた人に尋ねます。
その嘘は現在どうなっていますか。
 - ③ ②で、2 相手は嘘だということは知らない に○をつけた人に尋ねます。
できることなら、嘘をついてしまった相手に対し、どうしたいですか。
 - ④ ③で、その他に○をつけた人に尋ねます。どうしたいですか。
 - ⑤ ①で、1 ある・2 あるかもしれないに ○をつけた人に尋ねます。
嘘をついたことについて、自分自身にどう感じますか。

結果



また、③の詳細について問う④の回答に関しては、「謝って仲直りしたい」という回答があり、⑤の回答に関しては「後悔している、正直に言えばよかった、卑怯だと思う」という意見がほとんどを占めた。

このことから生徒は、『相手が嘘だとわかっていない場合、“そっとしていきたい”と考えている』生徒が半数おり、謝って人間としての弱さ（嘘をついてしまった過去の自分）に打ち勝とうとする気持ちが高いとはいえない。しかし、中には『謝って仲直りしたい』と考えている生徒もいるので、本時の学習を通して、互いに人間の弱さや醜さについて気付き、それに打ち勝って気高く生きようとする心を育て、互いに協力したり信頼し合えたりする人間関係の大切さについて考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、1920年代の前半（大正10年代）頃のできごとを、40年後に筆者が回想したものである。足袋を買うために「私」が寒さに耐えかねて、大福餅を売るおばあさんから釣銭をごまかしとってしまう。良心の呵責に苛まれつつも直接おばあさんに謝ることのできなかつた主人公であったが、数年後初月給をもらった後で再びおばあさんを訪ねる。ところがすでにおばあさんは他界し、おばあさんとは会えずじまいになってしまうという内容である。

古い話ではあるが、今の中学生と同年代の「私」の視点で書かれている物語なので、事前指導

で物語の時代背景（当時の貨幣価値、足袋、貧しい暮らしの子ども等）をおさえ、主人公の「私」の状況を把握させることが大切である。「私」の心の揺れに注目させ、最終的にねらいとする価値を、個の学び、そしてグループでの話し合い活動で他者の考えを聞き、自分の考えを深め、自身とのつながりでとらえられるようにしていく。

以上のことから、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◇評価の視点
導入	1 北海道小樽市の写真を見て、どのような環境だったか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・寒そう ・雪が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・小樽市の雪写真を大型テレビで表示し、当時の環境をとらえ、足袋がないととても厳しい環境だったことを示す。
展開	2 教材の内容を再確認する。 (1) 日夜小さな「私」を苦しめたものは何でしょう。 (2) なぜ、「私」はお婆さんのところへ行ったのでしょうか。その行動に突き動かしたのはどんな思いでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・嘘をついた自分が嫌になる気持ち ・謝りたい気持ち。 ・自分を励ましてくれたと都合よくとらえてしまった気持ち。 ・本当のことを言いたい。謝りたい。 ・感謝を伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で教材を読み、時代背景を押さえたことに触れ、「私」と「お婆さん」の関係や、「私」がついた嘘について、大型テレビに表示し、確認する。 ・個人で考えをまとめさせる。 ・個人の考えを挙手して、発表させる。 ・私欲のために嘘をついてしまったことで、お婆さんに対する罪悪感に苛まされる「私」の心の葛藤に気付かせる。 ・個人で考えをまとめさせる。 ・個人の考えを挙手して、発表させる。 ・「このままでは嫌だ、自分に恥じない生き方をしたい」という「私」の気持ちに気付かせる。
	気高く生きるために、お婆さんが「私」にくれた心とは何でしょう。		
	(3) 気高く生きるために、お婆さんが「私」にくれた心とは何でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に誠実に生きていくということ。 ・人との出会いを大切に生きてくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えをまとめさせる。 ・班で意見を発表し合う。 3～4人班 ⇒ 10班 ・班で意見をまとめ、ホワイトボー

		<ul style="list-style-type: none"> ・貧しく苦しい生活でも、豊かな心をもつこと。 	<p>ドに記入し、黒板に貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の意見を発表する。 <p>◇小グループで主体的に考え、他者の意見を尊重しながら話し合うことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なるお婆さんの優しさではなく、「私」が考えさせられた生き方について考えさせる。 <p>◇人間として自分に恥ずかしくない気高い生き方をすることについて、自分の言葉で表現し、考えを深めている。</p>
終末	3 授業を通して、これまでの自分を振り返り、考えたことや感じたこと、これからの生き方について書きましよう。		<ul style="list-style-type: none"> ・今後の生き方に活かせるよう実践意欲をもたせる。 ・事前アンケートの結果を大型テレビに表示し、考えたことや感じたことをまとめる際の動機づけにする。

5 他の教育活動との関連

事前指導	前もって、他人に嘘をついてしまったことについてアンケートをとる。 前時で範読を行い、当時の金銭的価値観や教材の内容を確認させる。
道徳科	教材名「足袋の季節」 人間には自分の弱さや醜さを克服しようとする強さがあることに気付き、人間として気高く生きていこうとする心情を育てる。
事後指導	学級活動で、生徒が書いた思いや考えを紹介し、その後掲示する
家庭との連携	本時の内容や感想を学級通信で紹介し、人間としての生き方について話題にしてもらう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・小グループで主体的に考え、他者の意見を尊重しながら話し合い、様々な考えにふれることで自分の考えを深めることができている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・人間として自分に恥ずかしくない気高い生き方をすることについて、自分との関わりで考えている。

7 板書計画

足袋の季節

人間として気高く生きる

日夜小さな「私」を苦しめたものは何でしょう。

- ・嘘をついた自分が嫌
- ・謝りたい

なぜ、「私」はお婆さんのところへ行ったのでしょうか。

その行動に突き動かしたのはどんな思いでしょう。

- ・本当のことを言いたい
- ・感謝を伝えたい

お婆さんが「私」にくれた心とは何でしょう。
